

---

研究発表要旨

(1) 不登校を示した通常学級在籍の ASD 児を受け持つ担任の理解を深める支援のあり方

川崎医療福祉大学大学院医療福祉学専攻修士課程 ○木崎 伸子

川崎医療福祉大学医療福祉学科 諏訪 利明

【要 旨】

不登校と発達障害は何らかの関わりがあると考えられ、発達障害を持つ不登校児の場合は、その子どもの障害特性に合わせた指導を行うことが必要である。しかし、通常学級の担任が、どのように発達障害を持つ不登校児の障害特性を学び、理解を深め、支援を行ってきたのかという研究は少ない。

本研究は、小学校通常学級に在籍し、不登校状態を示していた ASD 児の担任教員が、TEACCH アプローチを参考にした個別介入アプローチ及び個別介入後のフィードバックにおいて、①どのようにその児童の ASD の特性理解を深めていったのかを明らかにし、②担任教員が ASD 児の障害特性を理解するための支援のあり方を検討することを目的とする。研究方法は、協力児のアセスメント及び個別介入を行い、そのフィードバックを担任教員に行う。また、個別介入前後に担任教員にインタビューを行

い、その発言内容を比較検討することとする。結果は、個別介入前のインタビューにおいて、担任教員は協力児の ASD の特性について、「その子の世界がある」と漠然と発言するだけだったが、個別介入後のインタビューにおいて、協力児には「こだわりがある」「パニックがある」「大きな声が嫌い」など、ASD の特性について具体的に発言することができていた。考察では、担任教員の協力児の ASD の特性についての発言の変化は、協力児のアセスメントの結果を具体的に数値により説明すること、また、個別介入での協力児の様子から ASD の特性について事例を挙げて説明することにより、より深く ASD の特性理解が進んだと考えられる。今後は、さらに、担任教員の発言について、フィードバックのどの場面で、どのようにして ASD の特性の理解を深めることができたのかを分析し、さらに詳しく考察を続ける。